

平成26年（1月～12月）における救急概況

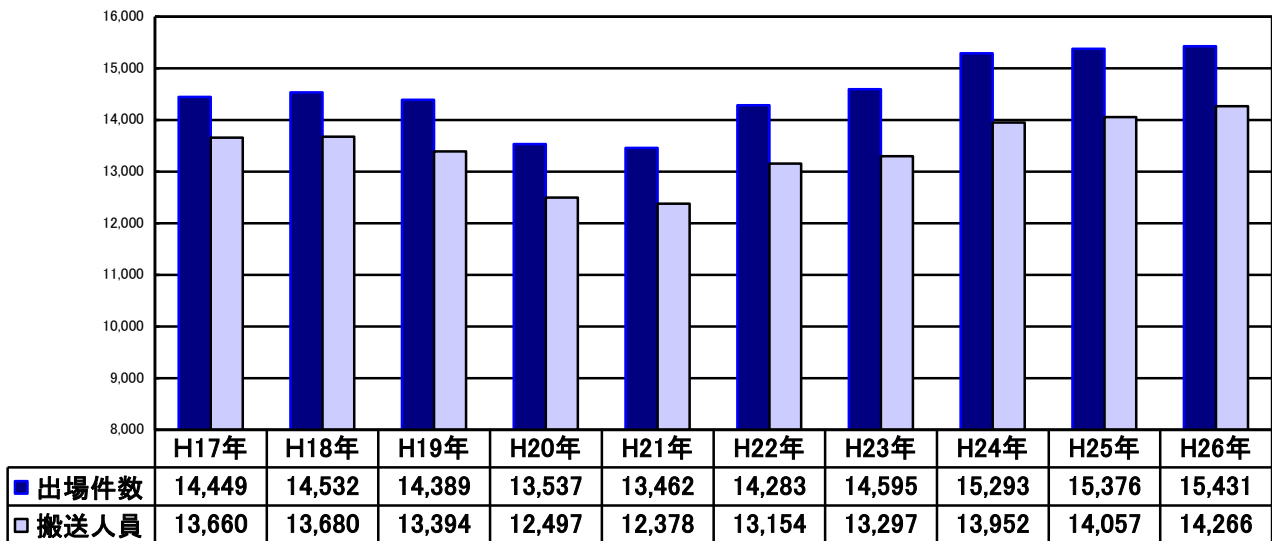
* 比較値については、前年の確定値と比較しています。端数処理の関係上、表中の計算が合わない場合があります。

1 救急出場状況

平成26年中の救急出場件数は15,431件で、前年と比べると、55件増加している。これは、1日平均42件（34分に1件）の割合で救急車が出場していることになる。

搬送人員は14,266人で、前年と比べると、209人増加している。出場件数、搬送人員とも過去最多となった。（第1図）

第1図 救急出場状況

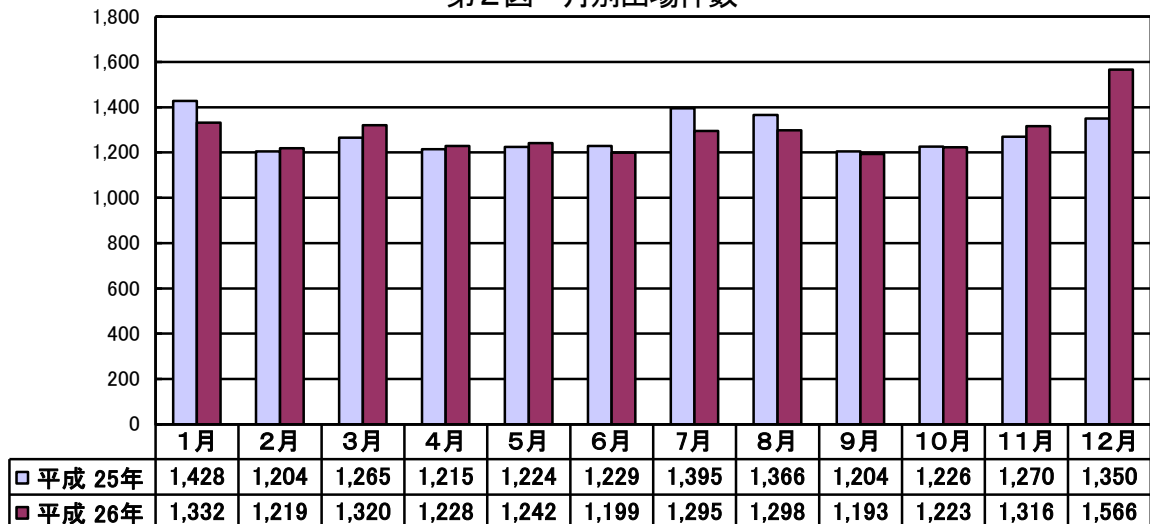


2 月別出場件数

救急件数を月別で見ると、12月が1,566件で最も多く、次いで1月が1,332件、3月が1,320件の順となっている。

前年と比べると、夏季は減少しているが、12月は著しく増加している。（第2図）

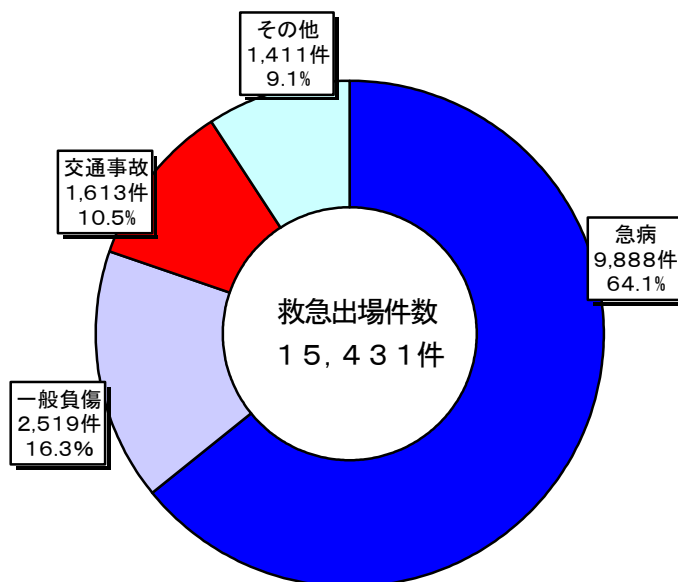
第2図 月別出場件数



3 事故別出場状況

救急出場件数を事故別にみると、急病が9,888件、次いで一般負傷が2,519件、交通事故が1,613件となり、これら3種別で全体の91%を占めている。(第3図)

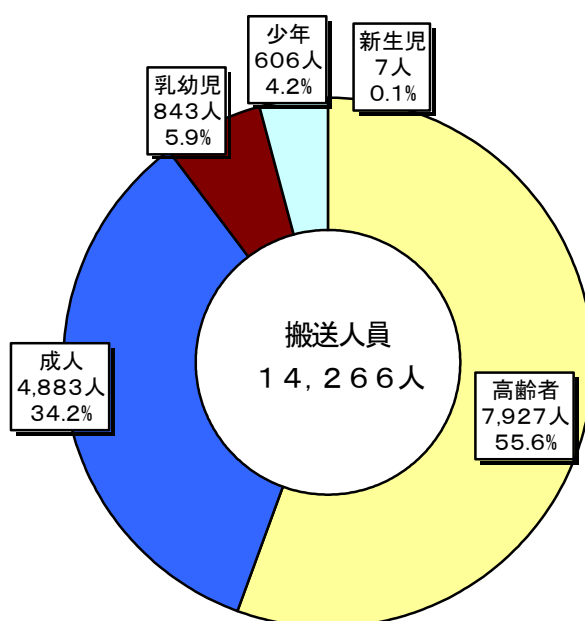
第3図 事故別出場状況



4 年齢区分別搬送状況

搬送人員を年齢区分別にみると、高齢者が7,927人で全体の56%を占めており、次いで成人が4,883人、乳幼児が843人、少年が606人、新生児が7人の順となっている。(第4図)(注1)

第4図 年齢区分別搬送状況



(注1)	新生児	生後28日以下	乳幼児	生後29日以上6歳以下
	少年	7歳以上17歳以下	成人	18歳以上64歳以下
	高齢者	65歳以上		

5 診療科目及び管内外別搬送状況

搬送人員を診療科目別にみると、内科が4,500人で、次いで整形外科が2,518人、脳神経外科が2,084人の順となっている。

搬送先医療機関については、全体の75%が市内で、25%を市外へ搬送している。(第1表)

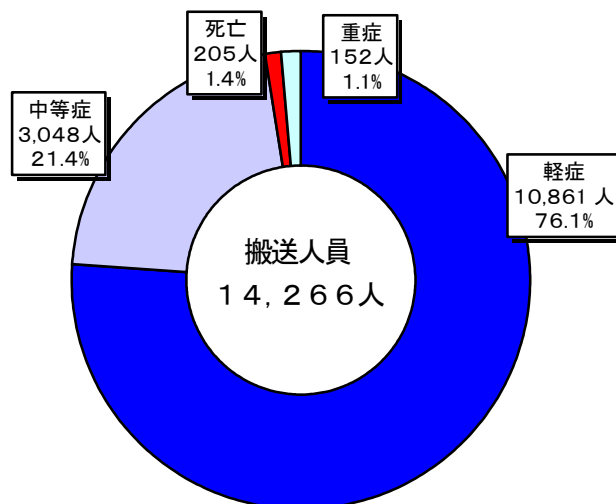
第1表 診療科目及び管内外別搬送人員

	八尾市内	八尾市外	合計(人)
内 科	3,705	795	4,500
循環器科	662	258	920
呼吸器科	492	181	673
小 児 科	309	393	702
新生児科	0	1	1
外 科	453	173	626
整形外科	1,903	615	2,518
脳神経外科	1,538	546	2,084
胸部外科	4	2	6
腹部外科	22	20	42
血管外科	0	4	4
口腔外科	6	4	10
小児外科	0	5	5
産婦人科	28	97	125
泌尿器科	195	62	257
皮膚科	13	1	14
耳鼻咽喉科	81	44	125
眼 科	7	20	27
神経内科	1,191	313	1,504
精神科	51	65	116
歯 科	4	3	7
そ の 他	0	0	0
合 計	10,664	3,602	14,266

6 傷病程度別搬送人員状況

搬送人員を傷病程度別にみると、軽症が10,861人で全体の76%を占めており、次いで中等症が3,048人、死亡が205人、重症が152人の順となっている。(第5図)(注2)

第5図 傷病程度別搬送人員状況



(注2)	死亡	初診時において、死亡が確認されたもの
	重症	傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
	中等症	傷病の程度が入院を要するもので重症にいたらないもの
	軽症	傷病の程度が入院加療を要しないもの

7 応急手当の普及活動

救急車の要請から現場に到着するまでに要する時間は平均7.9分である。

救急車が現場に到着するまでの間、救急現場近くの住民等による応急手当が適切に実施されれば、大きな救命効果が得られる。

消防本部では、住民の間に応急手当の知識と技術が広く普及するよう特に心肺停止状態の傷病者を救命する心肺蘇生法(人工呼吸・胸骨圧迫・自動体外式除細動器(AED)の使用方法)技術の修得に主眼を置き、住民体験型の普及啓発活動を積極的に推進している。(第2表)(注3)

第2表 普及啓発活動状況

対象区分	普通救命講習Ⅰ	普通救命講習Ⅱ	応急手当訓練	自主防災組織	合計
実施回数	65回	2回	82回	42回	191回
受講人員	1,869人	51人	3,379人	4,816人	10,115人

(注3) 普通救命講習Ⅰ	心肺蘇生法・AED・止血法の3時間講習
普通救命講習Ⅱ	普通救命講習Ⅰの内容に効果測定を加えた4時間講習
応急手当訓練	3時間に満たない心肺蘇生法・AED・止血法の講習
自主防災組織	自主防災組織への心肺蘇生法等の普及啓発状況